ひとくち

感染症情報

2023年6月22日
東京都健康安全研究センター

ヘルパンギーナが流行しています！

どんな病気？

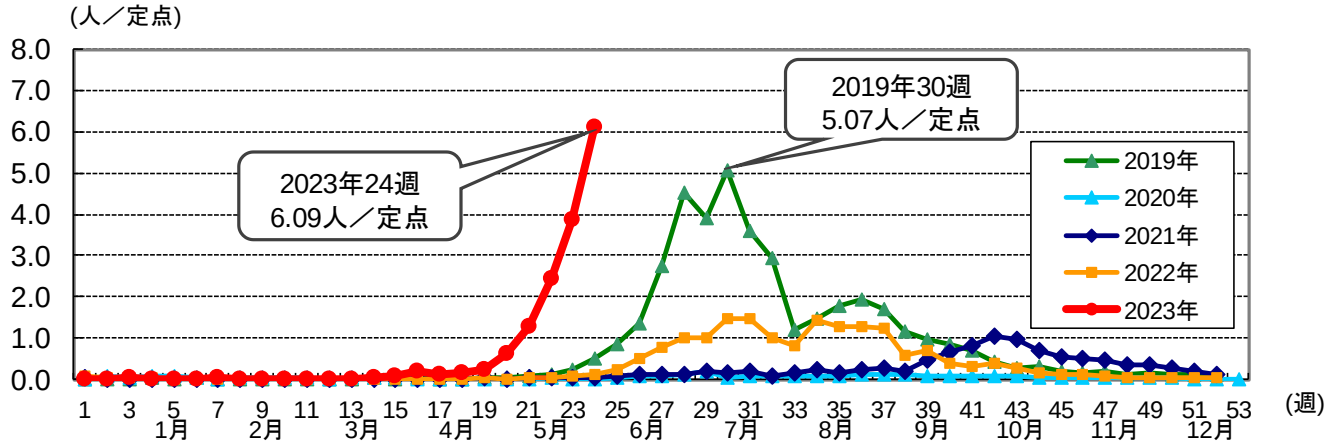
ヘルパンギーナは、主にエンテロウイルス属のウイルスによって引き起こされる感染症で、乳幼児を中心に夏に流行する感染症です。 主な症状は、38 度以上の突然の発熱に続き、口の中にできる水ほう（小さな水ぶくれで、痛みを伴います）が 1 週間程度続きます。食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあるため、水分補給を心がけることが大切です。治療は対症療法が中心になります。

どうやってうつるの？

ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれます（2～4 週間）ので、トイレ使用時やオムツ交換の際には注意が必要です。

どのくらい多いの？

ヘルパンギーナは例年夏に流行する感染症ですが、今シーズンは 5 月上旬頃より流行しはじめ現在、すでに九州地方を中心に警報基準を超えています。東京都でも 2023 年の第 24 週（6 月 12 日から 18 日）に都内小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数は 6.09 人と警報基準を超えました。



どうやって防ぐの？

原因となるウイルスはアルコール消毒剤に抵抗があるので、感染予防には、**石鹸でのこまめな手洗いが**有効です。トイレの後やオムツ交換の後、食事の前には手洗いを心がけ、集団生活ではタオルの共有は避けましょう。また、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは塩素系の消毒剤などで消毒しましょう。咳などの症状がある場合にはマスクを着用するなどの咳エチケットが有効です。